

## 平成27年度第2回「防災スペシャリスト養成」企画検討会議事概要

### 1. 検討会の概要

日時：平成27年8月5日（木）15:00～18:00

場所：中央合同庁舎8号館5階 共用会議室A

出席者：林座長、岩田委員、牛山委員、鍵屋委員、国崎委員、黒田委員、向後委員、丸谷委員、渡邊委員、加藤政策統括官、兵谷審議官、進藤参事官、後藤企画調整官、市川教授、中林教授

### 2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

#### (1) 講座の見直しの検討（⑥被災者支援）について

- 資料1-4の講座の見直しの1限目「被災者支援の全体像」において、市町村職員が避難所全体の管理体制について学べるようにしてはどうか。また、学習目標として挙げてはどうか。
- 「在宅避難」は本来「在宅被災者」の意味であり、誤解の生じることのないようにする必要がある。
- 「在宅避難」について正しく理解してもらえよう、講座内での説明をコーディネーターにお願いするとよい。
- 6限目「避難所以外の避難生活」の学習目標「障害者の避難実態を説明できる」とある中で、避難の実態に加えて、特に高齢者・障がい者・乳幼児・外国人等の要配慮者の置かれる厳しい状況についても学ぶような内容を加えてはどうか。
- 「多様な被災者」の存在とともに、それぞれの災害ニーズや各ニーズに対する解決手段には様々あることを示せるとよい。学習目標で明示出来るとなおいよい。
- コースのタイトルは、本コース内で避難所のことを学べることが分かるように、「避難所・被災者支援」などに修正してはどうか。

#### (2) 研修指導要領及び標準テキスト等の位置づけについて

##### ■標準テキストについて

- 標準テキストは、その内容によっては、法律改正や計画・ガイドライン等が見直されるたびに修正に係する箇所を更新が必要となり、これはたい

へんな作業となる。維持管理の体制や予算の確保も含めた継続的に管理するための仕組みについて検討する必要がある。

- 標準テキストに加えて、研修指導要領やコース指導計画書案を整備していく考えについては理解できる。
- 標準テキストは、細かい文字で詳細に解説するのではなく、分かりやすい図や表を用いて、文字の修正が多少入ってもそのまま使えるレベルのものを作成してはどうか。
- 標準テキストをスライドで作成することは、更新をする際は、修正が必要なスライドを更新版のスライドと取り換えるだけで対応できるため、効率的である。eラーニングの収録も、スライドに沿って実施することができる。
- 講師が作成する研修資料は、講師により内容のボリュームやデザインにバラツキが出るのが懸念される。テンプレートを提供して統一感を持たせるようにするとい。

#### ■コース指導計画案について

- コース指導計画案は、指導方法を簡潔に示したものとすればよい。ただし実習や演習部分については、コース指導計画案を見て実施できるようにするために、指導方法を詳しく示せばよい。
- 受講者に知っておいてもらいたいことや、出来るようになってもらいたいことを講師に示す上でも、指導の基準については明確化して示すべき。
- コース指導計画案や構造化表は、ニーズの変化に柔軟に対応できるよう、継続的に更新し内容の最適化をはかるとよい。
- 「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす・深める」といった学びの4段階を意識して作成するとよい。何をどう教え、コース指導計画案にどこまで示すかなどは、今後検討が必要。

#### ■研修指導要領について

- 研修指導要領は、各コースの達成目標や、身につけさせたい能力などを箇条書きに示したものにすればよいのではないか。また、座学・演習の区別はないが、コマの順番やテストを意識して、身につけさせたい能力などの項目を階層化（似た性質で分類し、階層をつけて仕分ける）して整理するとよいのではないか。
- 研修指導要領は、コーディネーターからの助言ももらうべきではないか。

#### ■標準テキストの更新サイクルについて

- 標準テキストの更新のサイクルは3年に1回程度で行うことを考えておけばよいのではないか。

### ■資料の配布について

- 研修指導要領、標準テキスト、コース指導計画案などの資料は、公開してはどうか。

### ■コーディネーターの役割や標準テキスト等の作成方法について

- コーディネーターの役割や標準テキストの作成方法等があいまいである。整理したほうがよい。
- 研修で講師が使用したスライドの使用許可（著作権許諾）を受ける際の説明の仕方について、スライドの一部が抜き出され、個別に活用されることもあり得ることなど、活用の可能性についても丁寧に説明して、問題が生じないようにする必要がある。
- 標準テキストの各ページには、出典元を明示すべき。
- 研修指導要領やコース指導計画案について、だれがどのように作成するかを明確にすべき。
- 整備の方向として、研修指導要領、標準テキスト、コース指導計画書案の作成を進めて行くことでよい。

### (3) 組織の能力評価の考え方

- 市町村の規模に応じた能力の自己評価ができるように、調査の仕方、調査項目、表現の仕方を変えてはどうか。
- 規模の違いで質問を分けるのではなく、どのような規模の市町村でも自己評価できる共通シートにしてはどうか。
- 客観評価だけでなく、主観的に自己を評価できる質問をするとよいのではないか。数値として明らかになることと、自由記述から明らかになることとを組合わせた質問としてはどうか。
- 選択肢は4段階とし、目標を明らかにした上で、「4：理想的な状況（将来目指す状況）」、「3：まあまあ」、「2：少し物足りない」、「1：全く足りない」のように、段階をつけた選択肢にすると分かりやすい。
- 各市町村における防災対策活動の参考となるように、評価結果はフィードバックすべき。
- 有明等の研修を受けることで自治体の能力向上が明らかになり、それが可視化されるような調査表を目指すべき。

### (4) eラーニングにおけるクイズ及びテストの実施方法について

- インストラクショナルデザインでは、最初に目標を決め、次にクイズをつくる。クイズ案はあまり凝らずに、目標をマスターしたかどうかを測れる程度でよい。

- 標準テキストの各章にある「まとめ」の内容をテストできるようにすればよい。
- 回答形式についても、「まとめ」に示した内容をイエス・ノーで答えるように問うのか、多肢選択で問うのか、目的に応じて定めればよい。
- フィードバックの視点が抜けているのではないか。間違ったときを学習のチャンスと捉え、テスト結果を踏まえたフィードバックをして、その場で学習させるという仕組みが必要。
- テスト結果には、正否の結果とともに問いに対する解説を提供すべき。
- クイズを通じて回答者の強みと弱みを明らかにしたうえで、勉強すべき内容を提示し学習を促すなどして、最低限これを理解しないと次に進むことができないような仕組み作りが必要ではないか。
- 講義は、自分が理解していないことを学ぶために受講するが、クイズは、自分が今できること（わかっていること）・できないこと（わかっていないこと）を知ることになる。クイズを使って自分が分かっていることだけを高めることができるのがeラーニングのメソッド。
- eラーニングが整備できたら、有明の丘研修は反転授業として、実習形式・演習形式を主体とした講座とすればよい。
- 少ない問題数で能力を測ることができるようになることが望まれる。

#### (5) 専用ホームページの企画について

- Facebook を使った人的ネットワークは、取り組めばよい。
- Facebook 開設後のフォローアップを大事にして進めるべき

以上